日本語と中国語のあいさつ表現について
――大人と子どもの間の談話分析――

曲　　志　強

1．研究の目的

1980年代から、ビジネス関係及び留学、就職、定住などの理由で、日本に滞在する中国人は増加している。同時に、ビジネス、企業進出及び留学などの理由で、中国に滞在する日本人も増加している。日本と中国の間の経済、文化及び政治などの交流が盛んになり、両国の繋がりがますます緊密になっている今日、日本人と中国人との直接的なコミュニケーションが極めて日常的な現象となっている。

日本と中国は、同じ漢字文化圏の国で、歴史的にも文化的にも緊密な関係にある。しかし、人間関係を維持する具体的なやり方は、日本と中国でそれぞれの特徴がある。これを十分理解しないことによる中国人と日本人の間に起こる、互いの誤解やコミュニケーション上のトラブルも珍しくない。

比嘉（1985：16）は、「あいさつそのものは人類に普遍的であっても、その具体的な内容や方法には民族的なあるいは社会的な差がある。…あいさつを心理的に、社会的に、そして比較文化的に研究することは、人間と社会の本質を理解するのに大きな貢献をする」と指摘している。近年、日本と中国のあいさつに関する対照研究が増えており、日本人と中国人の人間関係の取り方の実態を探索し、それぞれのコミュニケーションの特徴を究明する努力が見られる。

本研究は、大人と子どもの間の日常的なあいさつ表現に着目し、大人が子どもに対してどのようにあいさつすることを望んでいるのか、子どもが如何に社会のあいさつのやり方及びその背景に潜むルールを学んでいるのかという問題について、日本語と中国語の談話分析をすることが目的である。

2．「あいさつ」の定義

鈴木（1975:67）では、「あいさつ」を、「広くとれば、毎日、家族のものや知人と交わす『おはよう』『さようなら』のたぐい、初対面の人同士の自己紹介、公式の席における祝詞、答辞といったもの、さらに特殊な社会で用いられる仁義まで、あいさつとみなすことが出来よう。…狭くとれば、ことばによる『あいさつ』だけを指すことになろうが、実はあいさつというものは、ことば以外のおじぎ、微笑、態度といった行動様式とも密接に関連しているのである」としている。すなわち、日常の「おはよう」のたぐいから、自己紹介、祝詞や答辞などまでは、どれもあいさつとみなすことができるとしている。鈴木の説によると、あいさつは出会いと別れの一般的で日常的なあいさつと、冠婚葬祭などのより公的な場面における特別なあいさつの二種類に大別することができると考えられる。

渡辺（1977：198）は、「人間が他人との間に親和的な社会関係を設定するために、または、すでに設定されている親和的な社会関係に基づいて、それを維持強化するために行う社交・儀礼的な行動様式の一つを『あいさつ』という」と定義している。

要するに、「あいさつ」は、社交的・儀礼的な言葉や動作であるが、その使用場面と目的から日常性と公式性[1]の区別あるいは偶然性と意図性に大別することができるであろう。

しかし、先行研究を概観して、やはり比嘉（1981：5）が指摘した「あいさつとは、『人と人とが会ったときや別れるときにとりかわされる社交的なあるいは儀礼的なことばや動作』であると一般的に定義されている」との立場を支持したい。「あいさつ」の日常性と偶然性の特徴の方が公式性と意図性より一般的に広く認識されていると言えるであろう。本稿では、紙幅の関係から公式の席における祝詞、答辞といった公式性と意図性の強い「あいさつ」ではなく、毎日、家族や知人と交わす「おはよう」「こんにちは」のたぐいの日常性と偶然性の特徴の強い「あいさつ」表現を分析の対象とする。その中でも「さようなら」といった別れるときにとりかわされる「あいさつ」は除外し、人と人とが会ったときの「出会いのあいさつ」に絞って分析し、検討を加える。

３．本研究のデータの収集

会話やコミュニケーションの研究において、テレビドラマのデータを収集し、談話分析の対象とすることが行われている。熊谷（2003:11）は、「テレビドラマでは、場面のバリエーションが豊富なだけでなく、やりとりの形になっているので、定型的な感謝や謝罪の決まり文句以外のストラテジーも含めた言語行動の展開例が収集しやすい」と指摘している。

テレビドラマのデータを利用して、日常のあいさつ表現の対照研究を行ったのは、まず小林（1981）である。小林（1981）は、言語材料として、テレビドラマと大学キャンパスでの観察手記、戯曲及び小説から基礎的な資料を収集した。この研究は、あいさつ表現の種類、機能、意味の特徴及びあいさつの選択行動に関与する社会的、物理的な要素について日米の異同を論じている。

メイナード（2001：ix）は、「テレビドラマを題材に、そこに表現される人間模様を通して日本語ではどのような感情表現が用いられ、どのような感情が共感されるのか、という問いに答えていきたい」という目的で、幾つかの恋愛をテーマにしたテレビドラマを選んで「しがらみことば」「親しさことば」「恋ことば」「けんかことば」という4種類に分けて談話分析をした。その中の一つの具体例として、『魔女の条件』（TBS　1999年）の二人の主人公の朝のあいさつが「おはようございます」から「おはよう」に変わる場面を分析し、二人の主人公の互いの関係の変化を指摘した。メイナード（2001）の研究は、テレビドラマをデータの収集対象として、会話やコミュニケーションの研究を行うことの有効性を先駆的に示している。

本研究では出会いのあいさつ「人に会った時にやりとりする、社交的･儀礼的な言葉や動作」に着目し、日本と中国の各3本のテレビドラマから収集した大人と子ども間の出会いのあいさつの実例を中心に談話分析し、対照研究を行う。

３．１　テレビドラマの選択基準

テレビラマにおける「あいさつ表現」のデータ収集に関しては、脚本上の限界や演出上の特殊な意図の可能性も考える必要がある。一方ドラマに現実味を出すためにその場面に自然で典型的な発話や行動が表現されていると考えることができる。したがって、できるだけ日常生活で現実的に使用される言葉が使用されるようなドラマの選択が必要である。本研究で、あいさつを行う双方の社会的属性の違いや、あいさつが使用される場面の違いを考慮し、文化、言語両方の視点から調査するため、調査対象として選んだテレビドラマは以下の通りである。

日本のテレビドラマ（3本）：

『恋を何年休んでますか』　TBS2001年（連続10話、以下『恋』と略す）

『明日があるさ』　日本テレビ2001年（連続11話、以下『明日』と略す）

『アネゴ』　　日本テレビ2005年（連続10話、以下『アネゴ』とする）

取り上げたテレビドラマの時間数について、日本の方は1話（CMを除く）の時間が約45分間である。3本のテレビドラマの総放送時間は、31（話）×45分間＝1395分間＝23.25時間である。

中国のテレビドラマ（3本）：

『结婚十年』　CCTV2003年（連続20話の中の11話、以下『結婚』）と略す）

『有泪尽情流』　広東衛視2003年（連続21話の中の11話、以下『有涙』）と略す）

『婆婆』　　CCTV2004年（連続22話の中の12話、『婆婆』とする）

取り上げたテレビドラマの時間数について、中国の方は1話（CMを除く）の時間が約45分間である。3本のテレビドラマの総放送時間は、34（話）×45分間＝1530分間＝25.5時間である。中国の3本のテレビドラマの総放送時間は日本の3本のテレビドラマの総放送時間と大きな差はない。

３．２　日本のテレビドラマの出会いの場面数、あいさつ回数、大人と子ども間のあいさつ回数

日本の3本のテレビドラマの中の出会いの場面数、あいさつ回数及び大人と子どもの間のあいさつ回数を以下の表１に示す。

表１　日本　出会いの場面数、あいさつ回数及び大人と子どもの間のあいさつ回数

テレビドラマ名	出会いの場面数	あいさつ回数	大人と子どもの間のあいさつ回数
『恋を何年休んでますか』	117	108	15
『明日があるさ』	129	113	3
『アネゴ』	92	90	4
合計	338	311	22

表１の出会いの場面数とあいさつ回数が一致していないのは、この3本のテレビドラマの合計338の出会いの場面の例の中には、儀礼的社交的なことばや動作のある出会いの例が合計311で、直接実質的な内容の会話が交わされるか、または会って黙って互いに何の反応もないあい

さつなしの出会いが27例含まれているからである。

3．3　中国のテレビドラマの出会いの場面数、あいさつ回数、大人と子ども間のあいさつ回数

中国の3本のテレビドラマの中の出会いの場面数、あいさつ回数及び大人と子どもの間のあいさつ回数を以下の表2に示す。

表2　中国　出会いの場面数、あいさつ回数及び大人と子どもの間のあいさつ回数

テレビドラマ名	出会いの場面数	あいさつ回数	大人と子どもの間のあいさつ回数
『结婚十年』	122	115	9
『有泪尽情流』	72	69	12
『婆婆』	99	94	13
合計	293	278	34

4　テレビドラマデータの採取方法と文字化の方法及び原則

選択したテレビドラマの出会いのある場面すなわち異なる主人公が互いに会った場面の内容をノートに記載する。データ資料の文字化について、ザトラウスキー(1993)とメイナード(2001)を参考にし、以下の文字化方法及び規則を定めた。

① 漢字と仮名交じりで文字を表記する。
② 笑い、頷くなどのジェスチャーだけであいさつし、言語的なやり取りがない場合、(笑い)(頷く)のように(　　)の中に入れて表記する。
③ ジェスチャーと言語的やり取りが同時にあるいはほぼ同時に発生する場合、ジェスチャーの内容を背景の説明の部分で表記する。
④ 聞き取れない部分は(？)で示す。
⑤ ？　疑問表現の上昇イントネーションが認められる所。
⑥ 。文末のイントネーションが認められ、文法的に文と認められる発話が終わる所。
⑦ 、(中国語では ,) 文が続く可能性がある所。
⑧ …　省略しても内容の理解に影響がない部分。
⑨ ！　間投詞、呼びかけ、定型表現(準定型表現も含む[2])、指示及び命令などの内容の終わるところを感嘆符で示す。重複表現の場合、後の部分の終わるところに感嘆符！で示す(例:日本語―どうぞどうぞ！、中国語―你好你好！)。
⑩ 人の名前及び職位は以下のように示す：
日本人―姓、名前、職位、姓＋職位及び家族間の呼称(例えば：父、母、次郎)
中国人―姓、名前、フルネーム(例えば姓と名前が各一字の場合：韩梦)、職位、姓＋職位及び家族間の呼称

4．1　本論文における表記方法

採集したデータは、本文中では原則として□内に入れて表記する。

中国語は、基本的には現代中国語における簡体字による表記法に従う。本文中の中国語は、“关注”のようにダブル･クオーテーションで囲む。日本語訳を示す場合は､原則として“关注”（配慮）のように丸括弧を用いて挿入する。ただし、辞書などから引用した場合、/　など原典の表記に従う。英語などその他の言語のデータも“　　”に入れる。

5．テレビドラマから収集した大人と子ども間の出会いのあいさつの実例と分析

本研究における大人と子ども間の出会いのあいさつの実例の表示は、以下のようになる。

例5．1―1（『恋』6　夜、辻で、有子と子どもが知り合いの理沙と会った。）

子ども→理沙：　今晩は！
理沙→子ども：　今晩は！
（有子　お辞儀）
理沙→有子：（お辞儀）先日は、どうもお邪魔しました！
有子→理沙：いいえ！

例の番号「5．1」は第5節の第1部分であることを示す。「―1」は1番目の例の意味である。また、「『恋』6」は､本例が出るテレビドラマのタイトルと第何話の表示で、『恋を何年休んでますか』の第6話に出現した談話であることを示す。

5．1　日本のあいさつの実例と分析

次に、日本のあいさつの一部分の実例をあげて分析する。テレビドラマの例の番号は取り上げられる順番を踏まえて、以下のように示す。

例5．1―2（『恋』4　昼、有子、良平と子どもが島の店に来た。）

子ども→島：　こんにちは！
島→子ども：　こんにちは！
良平→島　：　すみません！突然来ちゃって。
島→良平　：　ちょうど今お宅のテーブルに取り掛かったところなんです。 どうぞ、ご覧になってください！

例5．1―3（『恋』8　夜、会田美容院、有子と子どもが来た。）

子ども→店員、咲子：　今晩は！
店員、咲子→子ども：　今晩は！
有子→会田　　：　これはね、散らし寿司で…

例5．1―3『恋』8では、子どもと知合い及び店員とあいさつした後、子どもの親は直接実質的な内容に入る。例5．1―2『恋』4と例5．1―1『恋』6では、子どもがあいさつした後、親あるいは知り合いの人もあいさつしている。ただ、子どもが定型表現のあいさつをしている

のに対して、大人同士のあいさつは、ある実質的な意味を含めて、いわゆる「準定型」(小林1981:89)のあいさつだと考えられる。要するに、先に子どもによってあいさつが行われても、完全に大人のかわりはしていないことが分かる。

例5. 1—4(『恋』10　夕方、孫、迎えに来た祖父母と会った。)

祖母→孫：	健太ちゃん！
孫→祖父：	おじいちゃん！
祖母→孫：	お帰り！

例5. 1—5(『明日』10　夜、浜田が家に帰る途中、家族が待っている。)

子ども→浜田：	パパ！
浜田→子ども：	おい！
妻、子ども→浜田：	お帰り！
浜田→妻、子供：	買い物帰りか。

以上の例に、共通する点は、あいさつする相手が知合いの人(親の友達か知合い)にも、店の人にもかかわらず、子どもがみんな定型表現であいさつしている点である。大人の方も子どもにきちんと定型表現であいさつしている。

例5. 1—4『恋』10と例5. 1—5『明日』10では、大人から子どもに、逆に子どもから大人に対する呼称によるあいさつが見られたと同時に、定型表現「お帰り」が用いられていた。

もう一つ特徴的なのは、例5. 1—4『恋』10以外の上記4例は、子どもと親が一緒にいる場合で、子どもが親より先に相手にあいさつしている点である。これは、日常生活の中でもよく見られる現象である。新聞の投書などで、今日の若者と子どもたちのあいさつの意識及び作法に対して批判する意見をよく目にするが、上記のような例から、日本において子どもがあいさつの伝統的言語文化規範を習得する配慮が窺える。また、子どもが先に大人にあいさつする、つまり目下から目上に対してあいさつするという見えざるルールが存在することが分かる。

5．2　中国のあいさつの実例と分析

次に、中国のあいさつの談話の実例をあげて分析する。

例5. 2—1(『結婚』13　朝、隣人の女性周紅がマンション階段の玄関を出た韓夢及び韓の息子に声をかけた。)

隣人→果果(韓の息子)：	呦！果果上学呀？(へえ！果果ちゃん学校に行くの？)
韓→隣人	：哎！(ええ！)

例5. 2—1の“呦！果果上学呀？”(へえ！果果ちゃん学校に行くの？)という隣人の問いかけのあいさつに対して、“哎！”(ええ！)と親が返答を代行している。このように、子どもがまだ幼くて適切に大人からのあいさつに答えられないような場合、親の方が子どもの替わりに

相手の大人とあいさつのやりとりをすることは、日本でも見られるごく自然な言語行動である。

例5. 2—2（『結婚』20　昼、韓夢及び息子の果果がマンションの前で隣人の女性周紅に声をかけた。）

韓→果果	：快叫周红阿姨！（早く周紅おばちゃんと呼びなさい!）
周→韓、果	：哎！（ええ！）
果→周	：周阿姨好！　（周おばちゃん、こんにちは！）

上述の例5. 2—2の「韓→果果（息子）：快叫周红阿姨！」は、「早くあいさつしなさい」とあいさつを催促している例である。

「快叫周红阿姨！」は直訳すると「早く周紅おばちゃんと呼びなさい！」であるが、意訳すると「周紅おばちゃんにあいさつしなさい！」となる。このことからも中国語の文脈では、呼称自体があいさつの一部を構成していることがわかる。

例5. 2—3（『有涙』5　朝、邱宇平が共同住宅の庭で隣人の馬小霜及び娘の月月に声をかけた。）

邱→月月	：月月！你咋还不上学去啊？（月月ちゃん！どうしてまだ学校に行かない？）
月月→邱	：邱叔叔！我妈的自行车没气了。我又要迟到了。（邱おじちゃん！母の自転車は空気が抜けた、わたしまた遅刻してしまう。）

例5. 2—4（『有涙』17　夕方、邱宇平が共同住宅の庭に入った隣人の馬小霜及び娘の月月に声をかけた。）

邱→月月	：月月！（月月ちゃん！）
月月→邱	：邱叔叔！（邱おじちゃん！）
邱→馬	：听说你开公司啦？（あなた会社を設立したそうですが。）

子どもと大人が一緒にいる場合、子どもがあいさつの主役になったり、あいさつの内容になるということである。もう一つの特徴的なのは、上記2例とも子どもと親が一緒にいる場合で、ほとんど大人が先に相手の子供に声をかけている点である。これは主に以下の要因によるものではないかと思われる。まず、子どもを形式上の相手にしてあいさつするのは、大人より話しやすい面がある。子どもの名前だけを呼びかけてもいいし、子どもの状況や様子について聞いたり、確認したり、評価したりしても大人の方よりプライバシーの問題など失礼になる可能性が低い。また、子どもにあいさつするのは、子どもの親すなわちあいさつの本当の相手に対して伝えるのは、「あなたの親愛なるお子さんを可愛がっているから、あなたにも親切な気持ちを持っているよ」という背景に潜む意思の表現である。このような子どもを介した前置きによって、次の段階の大人との意思疎通に移ることが容易になる。

子どもが大人にあいさつするとき、“周阿姨好！”（周おばちゃん、こんにちは！）のように「呼称＋“好”」の使い方もあるし、“邱叔叔！”（邱おじちゃん！）のように呼称だけでもあいさつが成立することもある。年上ということ自身が尊敬されるべきという意識があるので、一般

的に子どもは、礼儀作法の躾の一つとして、自分より年の上の子どもを“哥哥”（お兄ちゃん）、“姐姐”（お姉ちゃん）、自分の両親と同じ世帯の人を“叔叔”（おじちゃん）、“阿姨”（おばちゃん）、もっと年配の人を“爷爷”（おじいちゃん）、“奶奶”（おばあちゃん）と呼びかけるように厳しく教育される。年の上の人に呼びかけることだけで、もう相手に対する尊敬の意を表すことができる。

５．３　大人と子ども間のあいさつ表現の比較

本項ではテレビドラマのデータに基づいて主に家庭内（帰宅と親類訪問）、移動中（共同生活区を含む）、訪問（他人家庭）の三つの場面から、子どもが大人に向けてあいさつする内容、大人が子どもに向けてあいさつする内容の日本語と中国語を対照させて比較検討する。大人と子ども間のあいさつ表現を次の表３～５に示す。

表３　大人と子ども間の日中日常あいさつ表現比較対照表　家庭内（帰宅と親類訪問）

日本語		中国語	
大人から子どもへ	子どもから大人へ	大人から子どもへ	子どもから大人へ
ただ今 お帰り 健ちゃん、どうしたの？ね…	ただいま お帰りお帰り パパや！ ママ！お帰り パパ！お帰り ママね、パパ今から帰るって	“冰啊！”（名前＋よ）、 “阳阳！”（名前）、 “来啦？”（来たね！）、 “放学啦？”（学校終わり？） “赵冰啊！你干吗呢？”（趙氷！何をしている？） “哎哟！这个大孙女！”（よくまあっ！何と可愛い孫ちゃんだ）	“奶奶！”（おばあちゃん！） “姥姥！”（おばあちゃん！） “太奶奶！”（曾おばあちゃん！） “爷爷！”（おじいちゃん） “我回来啦！”（わたし帰ったよ！） “太奶奶！您来啦？”（曾おばあちゃん！来ましたね！）

まず、日本語の家庭内（帰宅と親類訪問）の場面におけるあいさつ表現を見る。大人の方は、定型表現の「ただいま」「お帰り」の他に、「健ちゃん、どうしたの？ね…」のように、特別な情況がある場合、呼称の後、直接実質的な質問に入る例があった。子どもの方は、定型表現の「ただいま」「お帰り」の他に、呼称だけ、呼称＋定型表現があった。また、「ママね、パパ今から帰るって」のように、特別な情況がある場合（伝言する必要がある場合）、呼称の後、直接実質的な内容（伝言内容）に入る例もあった。定型表現でも大人の場合と違って、「お帰りお帰り」のような重複表現が用いられている。帰宅の場面において、子どもの方のあいさつ表現は大人より、定型表現が基本であると同時に、より多様化している特徴が見られる。

一方、中国語の例では、大人の方は呼称“冰啊”“阳阳”、呼称＋相手の状況や様子について聞く“赵冰啊，你干吗呢？”（趙氷！何をしている？）、相手の状況や様子を確認する“来啦？”（来たね！）、“放学啦？”（学校終わり？）と相手の行動や様子について評価する“哎哟！这个大孙女！”（よくまあっ！何と可愛い孫ちゃんだ！）のようなあいさつ表現が見られた。子どもの方は、呼称“奶奶！（おばあちゃん！）“姥姥！”（おばあちゃん！）、相手の状況や様子を確認する“太奶奶！您来啦？”（曾おばあちゃん！来ましたね！）と自己報告“我回来啦！”（わたし帰ったよ！）のようなあいさつ表現が見られた。大人から子どもへの呼称は名前及びフルネー

ムが用いられている。フルネームの使用は中国人の姓が一字一音の場合が多いという現象と関係があるであろう。大人の場合も子どもの場合も定型表現は見られなかった。

中国語のあいさつの“…来啦？”（…来ましたね！）の表現に対して、意訳では日本語の「よくいらっしゃいました」ぐらいの意味ではないか、との疑問もあるが、ここでは、“太奶奶！您来啦？”（曾おばあちゃん！来ましたね！）というあいさつの実例を考えてみる。

例5. 3—1（『婆婆』13　昼、曾祖母が曾孫の家に来た。）

曾孫→曾祖母：太奶奶，您来啦？（曾おばあちゃん！来ましたね！）
曾祖母→曾孫：不欢迎啊？（嫌なの？）
…

来訪した相手に来訪された一方があいさつとして、“…来啦？”（…来ましたね！）と聞く或は確認する場合もあるし、“来得挺早啊！”（早く来ましたね！）などと、相手の実際の状況に応じて陳述する場合も極めて一般的である。一方、来訪した方は、ただ“来啦。”（来ました）と答える場合もあるし、例5. 3—1『婆婆』13の“不欢迎啊？”（嫌なの？）（ここでは冗談半分）のようなあいさつ双方の実際の関係に基いていろいろ逆質問する或は陳述する場合もある。要するにあいさつのまま自然に次段階の会話に入る便利さがあり、あいさつ自身も実質的な会話の一部分になっている。この特徴は、日本語の家庭訪問場面に一般的に見られる「いらっしゃい（よくいらっしゃいました）」「お邪魔します」の定型表現のあいさつと対照的である。

次に、実例を見て帰宅時の自己報告のような中国語のあいさつ“我回来啦！”（わたし帰ったよ！）が、日本語の定型表現「ただいま」となるのか、を考えてみる。

例5. 3—2（『婆婆』9　昼、孫が祖母、曾祖母と一緒に住む家に帰宅した。）

孫→祖母、曾祖母	：奶奶！太奶奶！我回来啦。（おばあちゃん！曾おばあちゃん！わたし帰ったよ！）
曾祖母→孫	：放学啦？（学校終わり？）
孫→曾祖母	：哎！（はい。）

中国語の帰宅のあいさつは、“我回来啦。”（わたし帰ったよ！）がよく使われている。意味的には、日本語の「ただいま（帰りました）」と通じる部分もあるが、定型表現とは言えない。

帰宅の方の“我回来啦。”に対して、在宅の方は“回来啦？”（帰ったか）と確認の形であいさつすることもあるし、また、『婆婆』9の例のように、孫が学校から帰ったということを知っている前提で、“放学啦？”（学校終わり？）と質問する形であいさつすることもある。孫が買い物から帰ったと知っている前提の場合、孫が“我回来啦。”（わたし帰ったよ！）とあいさつしても、在宅の方は“买啦？”（買った？）と聞く形であいさつをすることもありうる。要するに、「相手中心」の発想で、相手がどのような行動を行ったかを話題にしてあいさつする。また、在宅の方から先に“回来啦？”（帰ったか）と確認の形であいさつされる場合、帰宅の方が“哎！”（はい。）と答えだけであいさつが成立する。ゆえに、“我回来啦。”（わたし帰った

よ！）が帰宅の場面においてよく使われるものの、決まった形のペアとしてのあいさつ表現になりにくい。

一方、日本語の方は、先に言うか後に言うかの区別があるが、日本語の定型表現「ただいま」は、帰宅時のあいさつとして、一般的に「お帰り（お帰りなさい）」とペアとなっている。相手に何か聞く必要がある場合、一般的に次段階において行われる。「ただいま」と「お帰り（お帰りなさい）」は、完全に儀式的なあいさつであると考えられる。

表４　大人と子ども間の日中日常あいさつ表現比較対照表　移動中（共同生活区を含む）

日本語		中国語	
大人から子どもへ	子どもから大人へ	大人から子どもへ	子どもから大人へ
こんにちは 今晩は お帰り 健太ちゃん おい	こんにちは 今晩は お帰り パパ おじいちゃん	“月月！”（名前）、“哟！果果上学呀？”（やあ！果果ちゃん、学校にいくのか？）、“月月！你咋还不上学去啊？”（月月！なぜまだ学校にいかない？）	“周阿姨好！”（周おばちゃん！こんにちは！）、“邱叔叔！”（邱おじさん！）

表４の日本語の移動中及び共同生活区の場面では、大人の方も子どもの方も、「こんにちは」「今晩は」「お帰り」のような定型表現、「健ちゃん」「パパ」のような呼称を伴ってあいさつする例があった。ただ、大人の方は間投詞の「おい」の使用も見られた。

表４の中国語の方は大人が呼称“月月”、相手の状況や様子について聞く“哟！果果上学呀？”（やあ！果果ちゃんが学校にいくのか？）、相手の状況や様子を確認する“月月！你咋还不上学去啊？”（月月！なぜまだ学校にいかない？）のようなあいさつ表現があった。相手のその場の状況や様子に言及することによってあいさつするのは、大人が子どもへの関心を示している。子どもの方は、呼称を伴って“邱叔叔！”（邱おじちゃん）、“周阿姨好！”（周おばちゃん！こんにちは！）とあいさつする例があった。

表５　大人と子ども間の日中日常あいさつ表現比較対照表　訪問（他人家庭）

日本語		中国語	
大人から子どもへ	子どもから大人へ	大人から子どもへ	子どもから大人へ
よー お帰りなさい いい子だね	こんにちは、 今晩は、 今日は！奈央子さん	“哟！小妖精！干吗呢？”（やあ！小妖精！何をしている？） “成果！你不记得叔叔了吗？”（成果ちゃん！おじちゃんのこと忘れた？）	“哟！邱叔叔！怎么了？”（よー！邱おじさん！どうしたの？） “方爷爷！”（方おじいちゃん）、“阿姨好！”（おばちゃん！こんにちは！） “邱叔叔！”（邱おじちゃん）

表５に示した他人の家庭への訪問の場合、日本語の方は大人が定型表現「お帰りなさい」、相手の行動や様子を評価する「いい子だね」と間投詞「よー」が見られた。子どもの方は、定型表現の「こんにちは」「今晩は」、呼称＋定型表現「今日は！奈央子さん」のようなあいさつ表現が見られた。特徴的なのは、子どものきちんとした定型表現の使用と大人が相手の行動や様子を評価している点と間投詞の使用である。

表５に示した中国語の方は、大人が間投詞＋呼称＋相手の状況や様子について聞く“哟！小妖精！干吗呢？”（やあ、小妖精！何をしている？）と呼称＋相手の状況や様子を確認する“成果！你不记得叔叔了吗？”（成果ちゃん、おじちゃんのこと忘れた？）のような表現が見られた。子どもの方が、呼称“方爷爷！”（方おじいちゃん）、呼称＋定型的あいさつ表現“阿姨好！”（おばちゃん！こんにちは！）、間投詞＋呼称＋相手の行動や様子について聞く“哟！邱叔叔！怎么了？”（よー、邱おじさん！どうしたの？）のようなあいさつ表現があった。

以上表３～５をまとめて見ると、日本語の方は、定型表現の使用は、大人でも子どもでも見られるが、帰宅の場面において、子どもの方がより多様化しているという特徴が見られる。また、大人が子どもに向けて、相手のその場の状況や様子に言及することによってあいさつするが、その反対の子どもから大人向けの例が見られなかった。大人と比べると、子どもの方が、家族の間で呼称によるあいさつを多用している。

一方、中国語の方は、子どもが大人に向けて「呼称＋定型的あいさつ表現“阿姨好！”（おばちゃん！こんにちは！）」を用いている例があるが、その反対の、大人から子ども向けの使用が見られなかった。大人から子どもへ、逆に子どもから大人へ相手のその場の状況や様子に言及することによってあいさつする例があった。また、呼称の使用は家族の間でも他人向けでも、子どもが多用している。

６．まとめと考察

阿部（1999：103）は、日本と米国のあいさつ表現を比較して次のように指摘している。「あいさつことばは、どのような時に、どのようなことばを使い、それに発話者がどのような意味を込めているかというメカニズムに日米の差が現れ、この違いを解明することが、二つの社会の持つ伝統、文化、規範、慣習などを明らかにすることにつながる」。本研究は、大人と子どもの間の日常的なあいさつ行動を考察し、日本人と中国人のあいさつ場面の言語行動において、どのような差異があるのか、また、その異同が如何に二つの社会の文化、慣習の異同を表しているのかを探究してみた。

まず、日本人のあいさつ表現が場面ごとに、その時その場面にもっとも適合すると思われる定型表現があることが、特徴的である。これに対して、中国人の日常的なあいさつ表現は、その時その場の相手の具体的な状況や様子を詳細にあいさつに取り入れて表現する特徴が著しく、「その時その場」の部分と比べると、「相手の具体的な状況や様子」の部分に重点が置かれている。あいさつは儀礼的な言語行動であるが、日本と中国の礼儀の表示と相手への注目の表示との差異が見られる。

中道・石田（1999：121）は、次のように論述している。「日本社会では、他者とはまず人間関係を結んだ上で交渉に入るべきであり、関係構築・保持や交渉の各段階であいさつ行動をす

べきであるという規範が存在する。するべきあいさつをしなければ、好ましくない人間と評価される」。

要するに、日本人のあいさつは、まず相手を囲んでいる「場」を観察し、その「場」に相応しいあいさつ表現が求められる。このような場面においてはこのようにあいさつする、そのような場面においてはそのようにあいさつするということが、共通の認識になっている。中国人のあいさつはまず相手を観察し、相手の「人」を一次的に、「場」は二次的に考える傾向があると言える。

躾としての子どもへのあいさつの教育及び大人からの影響について、次のようにまとめられると思う。日本のような定型表現がより多く用いられるあいさつ方式では、子どもへのあいさつに関する教育あるいは躾の場合、具体的にどのような場面において、どのようなあいさつをするかを教えることが可能である。ゆえに、日本では、大人にとって教養として、子どもにとって躾としてのあいさつの専門書が溢れているのであろう。一方、中国人が呼びかけをもってあいさつすること、相手のその場の状況や様子に言及することによってあいさつすること所謂臨機応変の特徴が明らかである。このような相手のその場の状況や様子に言及することによってあいさつする方式では、子どもへのあいさつに関する教育或いは躾の場合、呼びかけ以外に、見様見真似による方法がより実情に合っている。また、日本の子どもは定型表現がより多く用いられるあいさつ方式により、礼儀正しさの習得と同時に、人間関係における距離の取り方を強く意識するように育てられたと考えられる。一方、中国の子どもは呼びかけと、相手のその場の状況や様子に言及することによってあいさつする方式により、人間関係における親しさを求めることを強く意識するように育てられたと言えるであろう。所謂臨機応変にあいさつする方式の特徴は、相手中心ということである。

【注】

1　ここでの「公式性」とは、主に会議、式典などの場面におけるフォーマルな社交的・儀礼的な言葉や動作を示している。

2　小林（1981）では、日本語の「今日は」と英語の“Hello”類のあいさつを「定型」、日本語の「しばらくでした」と英語の “How nice to see you again” を「準定型」と呼んでいる。本研究のデータの文字化の方法及び原則における記号の表示は「定型」と「準定型」を同一視する。

【参考文献】

阿部圭子（1999）「日米のあいさつことばの輪郭」『国文学　解釈と教材の研究・あいさつことばとコミュニケーション』第44巻6号、pp.98-103

熊谷智子（2003）「シナリオのある会話―ドラマの日本語の特徴―」『日本語学』第22巻2号 pp.6-14

小林祐子（1981）「日本人とアメリカ人の挨拶行動―出会いの挨拶」『東京女子大学附属比較文化研究所紀要』第42巻、pp.87-110

ザトラウスキー，ポリー（1993）『日本語の談話の構造分析―勧誘のストラテジーの考察―』くろしお出版

鈴木孝夫（1975）『ことばと社会』中央公論社
中道真木男・石田恵理子（1999）「日本語学習者と『あいさつ』―日本語教育の場で」『国文学解釈と教材の研究―あいさつことばとコミュニケーション―』第44巻6号、學燈社、pp.118-125
比嘉正範（1981）「あいさつの言語学」『月刊言語』第10号、大修館書店、p.5
比嘉正範（1985）「あいさつとあいさつ言葉」『日本語学』第4巻8号、pp.15-22
メイナード・泉子・K（2001）『恋するふたりの「感情ことば」―ドラマ表現の分析と日本語論―』くろしお出版
渡辺友左（1977）「あいさつ」佐藤喜代治編『国語学研究事典』明治書院、pp.198-199

（キョク・シキョウ）